

令和6年度第2回箕面市総合教育会議

◆ 日時：令和7年3月28日（金）10:00 ～ 12:00

◆ 場所：箕面市役所本館3階 委員会室

◆ 出席者：

【箕面市】

原田市長

【教育委員会】

藤迫教育長、山元代表教育委員、高橋委員、酒井委員、飯田委員、荒木委員

【事務局】

久下教育次長、藪本局長、今中担当部長、浅井担当部長、柴田副部長、
高取学校教育監、濱口担当副部長、村田担当副部長、山田担当副部長、
遠近担当副部長、宇根室長、北川室長、乾室長、皆川担当室長、新井室長、
脇井担当室長、赤城室長、六島室長、今峰室長、白井室長、山根室長、川口室長、
片山センター長、長與室長、森川室長、大上センター長、大迫館長、谷尾室長、
徳留室長、渡邊室長、根本室長補佐、森下

◆ 傍聴人：3名

◆ 議事内容

（事務局：藪本局長）

- 定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第2回箕面市総合教育会議を開催いたします。
- 本日の司会進行を進めます、箕面市教育委員会事務局子ども未来創造局長藪本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速、本日の一つの議題、箕面市教育大綱別紙2024の結果報告に移らせていただきます。
- まず、資料の構成についてご説明をいたします。資料1、箕面市教育大綱別紙2024の結果報告をご覧ください。この資料では、年次計画として定めております箕面市教育大綱別紙2024における重点事項を、学校教育、子育て施策、生涯学習・社会教育のテーマごとに記載しています。
- 資料の見方ですが、1ページ目を例にご説明いたします。四角囲みの中の二つのダイヤモンドは、箕面市教育大綱別紙2024に記載している計画の内容でございます。四角囲みの下には、計画の内容に対しての、令和6年度取組を記載しております。

- なお、本議題を進めるに当たりましては、ご出席の皆様には事前に資料配付をさせていただき、内容をご確認いただいていることから、事務局からの報告につきましてはポイントを絞った端的な報告とさせていただき、意見交換のための時間に充てたいと思っております。
- それでは、事務局からご説明をよろしくお願いいたします。

(資料1に基づき事務局から説明)

(事務局：戴本局長)

- それでは、意見交換に移りたいと思います。
- 市長から教育委員会へのご意見、また教育委員会から市長へのご意見、どちらでも結構でございます。ご意見がございましたら挙手にてお知らせください。

(山元代表教育委員)

- 30年ほど教育委員会でやってきまして、いろいろなことを見てきたので、1点だけ絞って話をさせていただきます。
- 箕面の英語、これは頑張っしてほしいなと思っています。先ほどの報告にもありましたが、小学校1年生から教科書のようにした指導案をきちんと作っていて、これほどのものを持っているのは全国で箕面市だけなんです。
- 私のところへ、様々なところの校長先生が箕面の「Enjoy English」がほしいと連絡をしてくれています。こういうものを箕面市は持っていますが、国は残念ながらまだ小学校5年、6年からしか英語は出来ていないです。
- 小学校の英語と言いながら、一つも体系は組まれてなくて、教員養成課程でもしっかりとやれているのかと心配もしているので、小学校1年からの英語ということを、国が始めることに期待はするんですけど、多分だめかなという感じがします。
- 箕面市が10年前に始めたときには、もう今頃には既に国が学習指導要領で小学校1年から英語を始めていると想定していましたが、出来ていないです。
- 例えば、寝屋川市、枚方市、河内長野市などは箕面市より先に小学校の低学年の英語特区を当時の文部省から取って始めていました。寝屋川市は小学校の低学年の英語授業を研究授業として全国公開していました。そこまでやっていて、今は跡形もないというのが現状であり、とても残念だなと思っています。その原因を、長い教育委員生活で考えた時に、政治に翻弄されたという印象が強いです。

- 例えば寝屋川市も枚方市も河内長野市も、小学生から英語を一生懸命したら中学生になった頃には英語力もついていて、英語の点数は大阪でトップレベルになるだろうと思われていました。しかしチャレンジテストが実施されて、5教科の市町村データが全部公開されましたが、そのデータが下位に所属していたんです。小学校から英語やってるのにこの結果というところが、大阪府の会議を通してそこで途切れたんだろうと思います。議会の承認も得られないし、首長の信頼も得られないということで英語教育は潰れていったのかなと勝手に想像しているのですが、箕面は全国学力テストの英語成績がすごくいいです。けれどもこれがいつまでも続くという甘い考えはいけないと思っています。例えば全国学力テストの英語の成績が振るわなかったときにどうするというのを考えた時に、箕面の英語は政治の上にもってみたいと思います。例えば首長がかわっても、議員さんがかわっても箕面の英語の取り組みは続けていくという姿勢を見せてもらいたいんです。子どもたちのためにやってることを、政治で潰されるというのは納得できないですから。
- 以前、第三中学校教員の方と話をさせてもらった時に、本当に箕面の小学生の英語を心配しておられました。十時からの中休みの時間、箕面市以外の小学生はグラウンドでにぎやかに大騒ぎして遊んでいます。でも箕面市の小学生はその時間、英語をやっているのも大丈夫かと聞いたら、先生方が「子どもたちはすごく喜んで、楽しんでいる」とおっしゃって。心配していたが、英語が定着しているのだなどのことでした。
- ぜひとも箕面市の英語教育は政治に負けないで続けてほしいです。ここは原田市長になったので、是非頑張ってもらいたいと思っています。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 箕面の子どもたちは時間はちょっと短縮してまして、遊ぶ時間が無いわけではないですが、その分英語に取り組んでもらっています。
- 先ほど話に出た「Enjoy English」という冊子があるんですが、これは1ページ開いたら片一方に日本語で書いてあって、片一方に英語で書いてあるんです。
- ALT と、英語が専門ではない先生がそれを見ながら、今週の授業はこの単元で、これしましょうと共有し、ALT は ALT の、英語が書いてあるページを見て、担任の先生は日本語で書かれているページを見て、お互いに共有しながら授業を行うために使用します。この様な冊子を作っている市は他にないです。
- やっぱ箕面の特徴としては「Enjoy English」、ALT の数、小中一貫 9 年間を通した教育が当たるとは思いますけれども、英語の場合、かちっと箕面版で出来ているんです。

- 例えば1、2年生の時にどのような能力を身につけるのか、身につけるためには授業の形態はどのような形が適当か、その授業にALTはどのぐらい必要かということや、もう少し学年が上がって、実際に生きた会話を身につけてもらう時期になったら、ALTの人数を少し増やしたり、授業形態を適当な形にします。
- 義務教育は9年間ありますので英語はそういう意味では、小中一貫教育にもつながっていると思っています。それと、市長も高橋委員も言ってました、ハット市とのSkypeを通じた交流ですが、以前教育委員会協議でも発言しましたがけれども、向こうの子どもたちは楽しんで取り組んでいただいていると思っています。ぜひ継続してやっていきたいと思っています。
- 市長からもアドバイスをいただいて、ハット市だけではなく、何か他のチャンネルはないのかということで、既にフィリピンの2校ぐらいに当たって、依頼書を出してスタートするという形になっています。
- ハット市との交流の際に、原田市長が、ハット市の市長と市議員さんにプレゼンをする機会がありました。元校長先生のハット市議会議員の方が、自己紹介や自分たちのまち紹介というような表面的なものをテーマにするのではなく、例えば世界の環境問題をどうしていくのかというようなテーマを設けて、ニュージーランドハット市ではこうなっていて、こうしていくべきだ、日本はどうすべきだというような形で、授業に絡めてやることが生きた英語につながり、ディスカッションもできるようになると。
- 私も聞いていて、出来ればそういう形で実施していけたらいいなと思っています。

(高橋委員)

- 教育長から生きた英語をというお話がありまして、同じことを思っております。
- Skypeで交流した時、非常に短い限られた時間の中で、最初の挨拶や簡単なやりとりだけで終わる。次に会った時も同じであんまり進展がないんです。
- ハット市の方も同じ事を考えているという感じだったんですが、何かテーマを決めて、簡単な算数の授業を英語で教えてもらうような形で、英語だけではなく他の教科も絡めながら英語を浸透させるというのが生きた英語だと思います。
- 例えば私が参加させてもらったパーラメントディベートという、議論するテーマを決めて、チームに分かれて議論を深める中で英語力を磨くプログラムがあります。
- 高校生以上、私立の学校で実施しているところが多いと聞きますが、義務教育の段階で実施してみることができると思います。中学生以下の年齢にどれぐらい使えるかわかりませんが、いろいろ英語を磨く仕組みはあるので、今あるものにプラスアルファで箕面市がどこまでできるのかということですね。

- ついてこれない子もいると思うので、そういう子たちはどういような手当てをしていくのかを含めながら、今後研究していけば、英語は伸びしろがある範囲だと思いますので、市長もおっしゃられるグローバルな人材になると思います。言葉だけでなく内面的な意味でもグローバルな人たちを育成する、根本のところで充実した英語教育をすることが大切だと思います。

(箕面市：原田市長)

- おっしゃるとおりだと思っています。
- 正直なところ、今回フィリピンに拡大をするという話もさせていただきましたが、3か所でやっていたニュージーランドとの Skype 交流が1か所に縮小されていて、常時交流が時間を決めた交流になっているということを聞いていましたので、現地であまりニーズがないのかと思っていました。
- ニュージーランドは、日本と交流することによるインセンティブがあまり働かないから、親日国であって、日本に働きに来るような方が多く日本のアニメ文化等も普及しているフィリピンであれば、あちらにもインセンティブがあって交流したいという子たちが多く、継続できるのではないかとということで、フィリピンで拡大してみてもいいということを言っていました。
- 今回ニュージーランドで気づかされたのは、ハット市の子どもたちがすごく目を輝かせながら、本当に交流する時間を楽しみにしてくれていたということです。
- 交流を本当に楽しみながらやっていたことがすごく印象的で、本当はすごく需要があるのに、仕組みがうまく出来ていなかったために、交流が途絶えていただけなんだということを気づかせていただきました。
- ハット市との交流も、システムの不備を正して交流できる環境を整えれば、子どもたちにとってとても有意義な時間になると確信出来ました。現地に行った子どもたちが目を輝かせていたのを見ることができてすごく良かったです。
- 高橋委員もおっしゃっていただいたように、自己紹介や簡単なやりとりだけではすごくもったいないなと思います。
- 私が強い印象を受けたのは、現地でハカの歓迎を受けたことです。小学生が思い切って自分の文化を表現しているということがすごく衝撃的でした。
- だから挨拶や簡単なやりとりだけではなく、文化の交流という視点でも、例えばハカを箕面の子どもたちにもやってみてほしいなと思いました。語学だけではなく、何か異文化の衝撃を受ける体験もしてほしいと思っています。
- 例えば語学力を伸ばすというのもそうですが、異文化に触れる体験をして欲しいとすごく思っています。英語教育の次年度以降のところは2025のほうでさせていただき、今行っている総括的なところのご意見をいただくということで、

今1校としか実施していないのはすごくもったいないなというのを改めて今回感じたので、しっかり広げていかないといけないというふうに思っています。

(荒木委員)

- 小中一貫教育についてなんですが、小中一貫の教育の価値を彩都で十分感じているんですけども、校区ごとの温度差を感じています。
- 要は、現場がどういった納得感で進めていて、小中一貫教育を重要に感じてもらえるような仕組みっていうのが、まだ足りてないというふうに感じました。私の視点としては、その制度を、現場に届ける側だと思ってますので、小中一貫に対する市長の視点を教えていただきたいです。

(箕面市：原田市長)

- この点はすごく難しいなと思っています。
- 箕面市は施設一体型小中一貫校と校区連携型の小中一貫教育があるので、施設一体型の小中一貫校のよさを積極的に発信していくことが、公教育の役割として難しいところがあるなと思っています。
- 本来ならば、どこの学校に行っても同じように充実した教育が受けられるというのが公教育の役割だと思っているので、施設一体型小中一貫校であっても、施設が分離している校区連携型小中一貫教育であっても、同じような効果が得られないといけないという中で、その施設一体型の小中一貫校のよさを積極的に広報していくっていうところの何か難しさは、感じています。
- その校区連携型の小中一貫教育も含めて、小中一貫教育の良さをもっとしっかり伝えていかないといけないというのは、おっしゃるとおりです。ただ箕面市として、小中一貫を進めていくので、その良さをしっかり発信をして、ご理解いただくという取組はご指摘いただきましたので、しっかり取り組んでいきます。施設が分離していたとしても、施設一体型の小中一貫と同じ効果を出していけるようにしていくのも我々の役割だと思っているので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 止々呂美に施設一体型小中一貫校が出来たときに、その校区連携型についても小中一貫教育を進めようという方針は立ち上げています。
- 立ち上げてはいるんですが、現場の教職員にとっては施設一体型でないと難しいとして、遅々として進んでいなかったんです。

- 船場に新しく施設一体型の小中一貫校を作るという時に、船場の新しい学校だけが小中一貫教育のメリットを享受するのではなく、もう1回立て直そうということで、方針を出しなめました。
- その中で、幾つかプログラムがあって、9年間でも短いと思いますけどできるだけ長いスパンで子どもを見ていくことが必要だなと。頭の中ではわかってるんだけど、実際動こうと思ったらやっぱり動きにくいということで、令和6年度は1ページの下に書いてますけれども、小中一貫教育推進コーディネーターというのを、モデル事業ということで、三中、五中に置いて、その先生はフリーで動いてコーディネートするという取り組みをしました。
- 私も何度か見に行きましたが、すごくヒットしています。三中と五中については一挙に動いています。コーディネーターの人選がよかったというのもあり、すごく熱心に取り組んでいただきました。その彼らがすばらしかったということもあるんですけど、様々な取組をしてくれてよかったというふうに思っています。
- 令和6年度は2校だったけれども、これだけ効果があったので、増やしていただけないかなと。来年度も見せる成果は十分にありますので。
- もう一つ、学校協議会というのを、年に3回小学校区単位で各学期ごとにやっています。
- 三中と五中ということではないが、小中一貫教育の方針を改めて立てた時に、その学校協議会は中学校区単位にしないといけないということで、メニューとして入れました。三中と五中で実際に行ったんですが、初めは否定的な意見が出たようですけれども、結論的には、おおむね理解していただきました。三中校区では地域の方々が、地域の人間として協力していただけるということで、地域主体で西南小学校の6年生と南小の6年生を対象に、三中の中庭でモルック大会を企画していただきました。いずれ一緒の中学校に行くからということで地域の方が主導で動いてくれたというのは、すごくうれしいことでした。残念ながら雨で中止になりましたが、私はその話を聞いて、地域の人は前向きに理解してくれていて、自分たちから動いてくれたことにとても感動しました。

(飯田委員)

- 今回、アプリを妊娠期のお母さんにお伝えすることで、情報の部分のケアをスタート切れたと思います。義務教育の前の段階からサポートして、人材育成を充実していかないと、小学校に上がったときには、もう格差があるのではないかなと思うので、その家庭の部分に関してもケアができればいいと思います。
- 今後この2024年にやったことを拡大するのもそうですし、浸透させる部分として、市民サービスとしての浸透、それと公教育の従事者の浸透、この浸透とい

う部分を2025年から徹底的にすることによってベースを作っていただきたいと思います。ベースが出来ないと、グローバル人材にはならないと思います。

- 英検や調査等の定量的なところはよく聞くんですが、それは結果であり、それまでの過程も大事にする箕面市教育委員会であって欲しいと思います。

(高橋委員)

- スケートボードパークのPR動画が公開されて、そういうものができたのを初めて知ったという声があり、発信の大切さを感じました。

(荒木委員)

- とよかわみなみの卒園式にお邪魔した時に、資料でいうと図書サービスの充実のところ。
- 園長先生が本の量がとても充実しており、保護者の方だったり園児が、毎日全然違う本を取り出していけるのでありがたいと思っていますとおっしゃっていました。この数字を見る限り、利用実績の成果は、とても高いなと感じました。
- ただ、本嫌いだった子が本を好きになったというようなことが分かるアンケート等があれば一層、箕面市の図書サービスの充実に繋がるのではないかと感じました。

(箕面市：原田市長)

- 私自身も令和4年度の貸出し冊数が全国と同規模自治体と比べて2位の実績となったことを全然知らなかったです。
- 人口当たりの図書館が多いことや、司書を配置していること、手厚い取り組みをしているという理解はしていたんですが、結果として99市区中、2位の実績があるとは知らなかったです。ここはもっと広報していきたいと思っていますし、2位だったら1位を取りに行こうと新年度にも今からでも書き込みたいぐらいの思いを持っています。2位でトップレベルだということで満足するのではなく、2位だったら1位を取りに行こうというのはすごく思っています。
- 今回ブックスタートも新しく新年度でスタートをさせていただくので、広報に力をいれて、箕面市が、本に親しむまち、図書にあふれるまち、読書習慣があるまちであることをしっかり打っていききたいなと思います。その際はアンケート等もとりながら、どのような人が本を読むようになったのか、月1回しか本を読まなかったひとが月3回読むようになった、というようなことも含めて、しっかり見える化はしていきたいです。
- 今回、新年度から新しく、ヘルパーさんの派遣であつたり、おむつの定期宅配であつたり、不妊治療不育治療、今どこで出張子育て広場をしているのか分か

らないという人もいらっしゃるので、こういうことをしっかりアプリ等を通じて発信をして、届けたい人にリーチできるように努めていきたいと思っています。

- スケートボードパークについては、僕がこけてるところばかり動画で映していただいていたので、あまりスケートボードに触れたことがない人でも行っていいんだということは伝わったのかなと思っています。ただ、私もスケートボードパーク、何回か見に行ったらですね、親子連れのかた等、スポーツの一つとして楽しんでくださってる様子を見て、利用者数も想定よりも多いという現状もあるので、本当によかったなと。
- 今、立地が悪いということを言われてますので、このような利用者が多い状況だったら、市街地にもつくっていいのかなと思ったりもしていますので、引き続き広報は頑張っていきたいと思います。

(事務局：藪本局長)

- たくさんのご意見をありがとうございました。今回頂戴いたしましたご意見をもとに、しっかりと、今後も取り組んでまいりたいと思います。
- 二つ目の議題に移らせていただきます。
- 二つ目の議題、次期教育大綱（案）及び、教育大綱実行計画 2025（案）について進めさせていただきます。
- 教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長に、大綱の策定が義務づけられており、本市では市長の任期に合わせ、計画期間を4年間としています。現教育大綱の計画期間が今年度末までであることから、本議題では、次期教育大綱についての案をごらんいただき、市長と教育委員会とで意見交換を行います。また併せまして、教育大綱に掲げられた方針を実現するための単年度計画である教育大綱別紙についても、その内容をご確認いただきたいと考えています。なお、教育大綱別紙については、その計画内容が伝わりやすいタイトルとするため、次年度から計画名称を教育大綱実行計画とする予定としております。
- それでは資料2、教育大綱（案）について、原田市長からご説明をよろしく願いいたします。

(資料2に基づき原田市長から説明)

(箕面市：原田市長)

- まずは、「子育て・教育世界一のまち」と私が掲げた時に、そんなことできるわけないと鼻で笑う人がいたんですよ。また選挙のためのパフォーマンスだと思ってる人がいると思います。
- 私は本気で世界一を目指せるのかどうかということを考えて、本当に目指せると、私自身は確信をしています。
- ただ中にはそう思っておられない方もいらっしゃると思いますので、思いの共有をしておきたいです。本当に世界一を目指せるんだというところを、皆さん自分事として、熱量を持って、共感したい、共有したいなと思って、今回この教育大綱の冒頭の言葉は今までの踏襲ではなくて、全て自分で書き上げさせていただきました。
- 今の箕面市の現在地を知るところから始めなければならないと思っています。
- （ホワイトボードを用いて説明）今、日本の状況は国際学力調査 PISA の調査結果を見ましたら、PISA2022 が発表している最新のものですが、まずこの数学的リテラシー、これは1位日本、2位韓国、3位エストニアということで、まず数学で数学的リテラシーでは世界トップに日本がいます。次に読解力は1位アイルランド、2位日本、3位韓国、日本は2位です。最後に科学的リテラシーは、1位日本、2位韓国、3位エストニアで日本が1位です。
- この世界の中でも今日本は、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー、において世界トップレベルにいます。次に英語力は、世界最大の英語能力指数ランキングと言われる「EF EPI」、英語能力指数で見ると日本は116か国中、92位（2024年調査）。ICT教育についても、世界と比べたらかなり低いという状況にあると。
- 日本の状況と比べて、箕面は日本の中でも、学力調査の結果等から考えると、箕面はトップレベルに位置しているということで、恐らく可視化すると箕面は日本よりも少し上の水準に位置するという感じだろうなと。
- 世界一の水準に到達するためには、まだ英語と ICT を延ばすということが、必要なんだろうと思います。
- 今回、定義をしたというふうに、ここに書かせていただいています。そもそも、日本は英語、ICT 以外は世界トップレベルにあります。世界トップレベルにあるけども、まだ世界一というには、英語教育、ICT の部分で不足しているので、その部分について向上させるとともに、全体の底上げをすることで世界一を獲得できると思っています。
- 既に、今かなり高い位置に英語と ICT 以外があるので、そこをしっかりと伸ばすことで十分世界一になれると確信しています。
- 様々な施策を掲げさせていただいたんですが、学校教育の部分で、箕面市は子どもたちの生きる力とつながる力を育みますという言葉で、グローバル人材を

育みますという言葉にかえさせていただきました。グローバル人材を育みますというと、英語をそんなに使えない人間はどうするとか、世界と関係ない仕事をやる子はどうするんだとか、いろいろ言われるかもしれませんが、私はそれでも英語教育をかなり伸ばしていきたいという思いを持っています。

- 山元代表教育委員からもありましたけど、かなりこの間、力を入れて取り組んできた英語教育は、トップレベルとかではなく、やるからには突き抜けて一位を取ろうと、英語を高めていきたいと思いますときに、英語は本当にしっかりやらないと、しゃべれるというところには持っていきけません。公教育の役割としてしゃべれるところまで持っていく必要があるのかと思われる方もいるかもしれませんが、英語を使えることで、たくさんの国際交流が出来ます。グローバル人材は英語だけではないと思っていますので、様々な異文化を体験し、理解することも期待できます。
- 今年は万博の年でもあって、インバウンドの方がこの箕面にもたくさん来ていただいています。だから日常で外国の方と触れ合うような機会もあるので、ここは思い切って、グローバル人材を育みますという学校教育の目標を掲げさせていただきました。英語力をしっかり高めていきたいですし、英語を使わなくても、ニュージーランドのハカのように、自分を堂々と表現できるような、ちょっと引っ込み思案なところがある箕面っ子も堂々と自分を表現できるような、そういう表現のところも伸ばしていきたいということで、グローバル人材を育みますということを掲げさせていただいたので、英語をしっかり引上げていきたいと思っています。
- 子育てはそもそも、日本は教育でトップレベルの位置にいるが、子育ては先進国と比べてもかなり低い位置にいます。
- 日本の中では箕面は高いほうですが、可視化すると世界トップからは低い水準だと思います。だから全体の総量を引上げていかないと、世界一にはなれません。世界一になるために様々な子育て支援策をこれからやっていきたいと思っています。新年度は、ヘルパーさんの派遣、おむつの定期宅配、不妊不育治療、ブックスタートなどですね、様々な子育て支援策の量的なところを増やしていきます。この4年間の間に、習い事助成をスタートさせることであったり、学校給食の無償化をスタートさせることであったり、しっかり世界トップレベルまで引上げていきたいと。そして世界一まで引上げていきたいという思いを持っているので、本当に今足りていない量をしっかり拡充をさせていくことで、施策を進めていこうというふうに思っています。
- 箕面は教育だけじゃなくて、文化芸術に関してももっと拡充させていきたいと思っています。子どもたちの学力テストとか、貧困率がどうか、といった数字で表しにくいところであるかもしれませんが、きっと何らかの相互作用があ

って、子どもたちにとって心が豊かになったりであるとか、数字上には出ないところの影響もあると思っています。

- 箕面は既に、読書習慣であったり、所得水準も高く、文化がまちに一定あると思っています。そこをもっと伸ばしていきたいというところもあって、この文化、芸術、スポーツというところも、力を入れていきたいということを掲げさせていただいています。
- この状況を見たら、十分、今も世界トップレベルに日本が位置していて、日本の中でもトップレベルの箕面は、底上げをしっかりとしていくことで、世界一になれると確信しているし、実際に今そういう状況にあるので、堂々と世界一になるんだという思いを持って、世界一を目指している自治体の教育委員会にいるんだという自負を持っていただいて、一緒になって世界一を目指していただきたいという思いで、この教育大綱は熱量を持って書かせていただいたので、ぜひ前例踏襲ではない、本当に世界一を目指す熱量を持って議論させていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

(事務局：藪本局長)

- 続けて、資料 3、箕面市教育大綱実行計画素案について事務局から説明をさせていただきます。

(事務局：根本室長補佐)

- 箕面市教育大綱実行計画 2025 では、教育大綱で掲げた基本方向や施策の方針を基に、令和 7 年度に実施する具体的な施策を記載しています。
- まず学校教育の分野では、五つの大項目を挙げています。一つ目の「小中学校 9 年間の授業で英語が話せるまち箕面の実現」では、英語指導助手を有効に活用することで、子どもたちの英語を使う力を高めることや、異なる文化の人に対しても、自分の考えや気持ちを表現できる力を育むために、大阪大学や箕面市国際交流協会とも連携しながら、子どもたちの国際交流の機会を増やすことなどを記載しています。二つ目の「子ども・教職員が ICT を使いこなす学校の実現」では、子どもたちや教職員の ICT 活用スキルの向上や、個別最適な学びの実現のための、箕面子どもステップアップ調査の結果を用いた AI ドリルの積極的な活用などを記載しています。三つ目の「複雑多様化する学校現場に対応した学習支援体制の強化」では、箕面版スクールロイヤーの配置や生徒指導体制の強化、登校支援や学習支援等の充実などにより、多様化複雑化する学校の課題に、より丁寧に対応していくことを記載しています。四つ目の「子ども達の体力向上」では、水泳授業、民間委託事業について、令和 8 年度の全校展開を視野に、令和 7 年度では、新たに 2 校の検証校を追加することや、部活動の地域展開

について、令和9年度の完全実施を目標に、令和7年度では、通年での休日における地域展開の取組を行っていくことを記載しています。五つ目の「小・中学校で分断されない、一貫した教育の実践」では、小中一貫教育推進コーディネーターの活用や、小中一貫教育のさらなる推進により、教育の質の向上を図っていくことや、大阪青山大学と連携した、豊かでおいしい低アレルゲン献立給食を小中学校で提供していくことを記載しています。

- 続いて2ページ目、子育て施策の分野についてご説明いたします。こちらでは三つの大項目を挙げています。一つ目の「真に使い勝手の良い子育て支援施策の展開」では、不妊症、不育症の治療に要する費用の一部助成、妊娠期から1歳の誕生月までの時期における家事、育児を支援するヘルパー派遣、生後3か月から1歳の誕生月までの時期におけるおむつ、ミルクなどの支給品の配達など、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行っていくことや、4か月児健診の場で、ブックスタートの取組みを開始することなどを記載しています。二つ目の、「待機児童ゼロの実現」では、民間保育施設における新たな保育士確保と、現に働く保育士の離職防止、双方の観点から、これまで展開してきた施策の効果検証や見直しを行いながら、民間保育施設の定員確保の状況に応じた、保育士確保策を推進すること。また、公立園への保育士についても、今後の保育ニーズを踏まえて、計画的な採用を実施することなどを記載しています。三つ目の、「保育・幼児教育の質の向上」では、公立幼稚園、保育所の再編について、令和3年に作成した新箕面市アウトソーシング計画の内容を見直し、保育所施設を活用した、ゼロ歳から5歳児を対象とした認定こども園の整備を目指していくことや、令和6年度に策定した「架け橋期カリキュラム」を活用し、保育幼児教育と小学校教育の円滑な接続に係る取組を進めることなどを記載しています。
- 最後に3ページ目の生涯学習・社会教育の分野についてご説明いたします。こちらにも三つの大項目を挙げています。一つ目の「公共施設の有効活用と、生涯学習機会の充実」では、豊かな感性や情操を育むために、親子や子ども向けの生涯学習講座を企画すること。図書館が子どもたちにとっての学びの場となり、子どもたちの感受性や共感力を高められるような図書館サービスを提供していくことなど、具体的な施策として挙げています。二つ目の「箕面市アートプロジェクトの推進」では、日常的にアートを感じられ、表情豊かなアートに触れたまちを創出するために、公共施設にアート作品を展示することや、箕面アートフェスの開催を通じ、プロやプロのアーティストや作品などに触れられる場を提供することなど、文化芸術が身近に感じられるような施策を進めることを記載しています。三つ目の「スポーツの機会の充実」では、本市にゆかりのあるスポーツチームと連携し、トップアスリートによる指導の機会をつくることや、令和8年度の室内温水プールの開業を目指して建設工事に着手することなど

を記載しています。なお、教育大綱の表紙にも記載しておりますが、本市では、箕面市教育大綱と、箕面市教育大綱実行計画をもって、教育基本法第17条第2項に定める、教育振興基本計画として位置づけることとしたいと考えております。以上でご説明を終わります。

(事務局：藪本局長)

- 説明が終わりましたのでそれでは、これから意見交換に移りたいと思います。ご意見ございますでしょうか。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 異なる文化の人に対して目的場面状況に応じて相手を意識し、自分の考えや気持ちを表現できる力を育むことにつながるとは思います。実は大阪府の事業で、万博でEMO-1 グランプリ、イングリッシュ漫才大阪グランプリというのが、7月30日開催されるそうです。要するに英語で漫才をするということです。
- このエントリーの道筋が二つあって、一つは純粋に友達同士でコンビを組んでエントリーすると。それは予選があるので、最後に勝ち残った人が出るというのが一つ。もう一つは、小学校中学校単位で手を挙げてくださいというもの。それは何かというと、学校の教育課程として、取組んでくださいと。例として、5コマぐらいを使って、英語での漫才をつくり上げてほしいというもの。それについては、専門家を何回か派遣して協力しますということで、もしエントリーして小学校中学校で1組選んだら、その人たちはもう予選なしで出場できるという取組みなんです。
- なかなかエントリーの期間が短いので、個人でエントリーするほうは手が上がるかもしれないが箕面市の学校から手は上がらないと思っていました。しかし各学校におろしたところ、中学校で複数手が上がったんです。
- 令和7年度の予算なので、表だってまだ動いてないのですが、大阪府のほうからは、事務的なレベルですが箕面市内から1校は出てもらいたいと思っていますといううれしい声がありましたので、正式に決定されたら発表しますけども、恐らく、箕面市の中学校の誰かは、7月30日に万博で出ると思います。まさに生きた英語の取組みだと楽しみにしていますので、また教育委員さんにも報告させていただきます。できたら見に行っていきたいと思っています。

(箕面市：原田市長)

- すばらしいと思います。何かこういう取れるタイトルはとってほしいなと思っています。

- タイトル取れる保証はどこにもないですが、給食甲子園に今年エントリーしますように、何か箕面の英語は強いとか、箕面の給食はおいしいとか、我々はわかってるけど、一般にはあまり知られていないところを、タイトルを取りに行くことによって、しっかり可視化して、本当に箕面の英語ってすごいんだと、箕面の給食はおいしいんだと伝えたら、取り組んでる本人たちも箕面の英語は素晴らしいからもっと頑張ろうという思いにもなりますし、保護者の方にも理解されると思います。
- 箕面は本当に素晴らしい結果をちゃんと出してるから、引き続きそこを伸ばして行ってほしいという理解を得られることにもなるので、取れるタイトルは取って行っていただきたいし、何か自分たちだけで言ってるわけではなくて、客観的に評価されてるんだということを可視化することは、行政側としても意識してほしいです。
- 教育委員会とか、学校側になると、そのためにやってるんじゃないとか、子どもたちを数字で測ってはいけないと言われがちですが、それをやることで子ども自身にも、一位をとったんだと、自信につながっていくと思うので、しっかりタイトルをとって行ってほしいです。
- これはあらゆる分野に言えることです。さっきの貸出し冊数が2位なので、これも1位取るというのは絶対にやってほしいと思っていますので、教育委員会にはもっと意識してほしいと常々思っているところです。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 大阪府がどう学校を選定してるのかわかりませんが、僕は勝手に箕面から選ばないっていうことは多分ないと思っています。大阪府でも、箕面市は英語力はトップにいるので、選ばない選択肢はないというので多分選ばうとしてくれるんじゃないかとそういうふうに思っています。最終的にどこが選ばれるかはわかりませんが、選ばれた中学校には、力を入れて頑張ってもらいたい。7月30日、もし出場が決まったら市長にはぜひ見に行っていたきたいです。

(箕面市：原田市長)

- イングリッシュエクспRESSIONコンテストなんかも、広く市民に見てほしいなと思っています。箕面っ子の英語力はこんなにもすごいんだというのは、もっと知ってほしいなと思っていますので、ぜひ行きたいです。漫才というのがおもしろいですね。自分を表現するということで、すごく楽しみにしているので、こういった取り組みにはぜひエントリーしてほしいです。

(酒井委員)

- 2024 年の結果報告のところで、将来に向けてのことでちょっと、いろいろお伝えしたいことがあったので、前の 2024 年の経過報告とか、この 2025 年の実行計画のところに、先ほどおっしゃられた ICT 活用に関することが出てきてると思いますが、私としては、その押し出し方が非常に弱いというか十分じゃないと感じています。
- 日頃、民間の企業の方と多く仕事をしている中で、今回、2 年前に教育委員をさせてもらうようになって、ICT 化が教育委員会に進んでるかという視点から見ると、大分遅れてるんじゃないかと思います。
- 私が仕事をする裁判所もとても遅れています。裁判所が世界的に見たらどれだけ遅れてるのかという話をすると、既に 15 年前 20 年前に、上海に行ったら全て IT 化されていて、紙で書面を出すとか、予約を電話でとったり、帳簿に何かを書くようなことはあり得なかったです。
- なぜこんなに遅れているのかという話で、いろいろ理由はあると思いますが、教育委員会の協議会でも、何でペーパーレス化してないのかなと 2 年間ずっと疑問に思っていました。最近ようやくになりましたが。そういうところを何となく去年と同じような形でもいいだろう、不都合が出てきたら、その時改善すればいいだろうという意識があったのだと思っています。
- 市長がかわられて、多様な意識改革で、見える化しましょうと先ほどおっしゃられました。私は、この ICT 化や IT 化に関して、不都合が生じてから動くのではなく、最先端、最新のものを取り込んで業務の効率化をしていくように意識を変える必要があると思っています。日本の子どもの ICT のリテラシーが低いのは、そういうモチベーションがないからであって、海外は必死になって追いつけ追い越せというところの意識の違いがあるのだと思います。
- 箕面の英語教育のレベルがなぜ上がってきたかと考えると、LITALICO だったり、いろんな教員を派遣してきたからだと思います。だからかなり意識的に予算や人をさかないと変わってこないと思います。
- 副市長が新しく着任されるときに聞いてみてほしいと思っています。箕面の現状をどう思いますかと。正直、子どもにだけ ICT リテラシーを求めて、我々、市役所や教育委員会はできていないです。このままだと、大人はだめだけど子どもにだけはさせる不適切な流れになってしまいます。
- これはもう正直、それぞれの持ち場のある職員の人のレベルではないので、ある程度トップダウンでやるしかないと思います。若い市長だからこそ、そういうことも期待されて、できるんじゃないかと私自身は思っています。
- 先ほど子育てのアプリが出来たことはよかったんですけど、今までメールでやってたのがおかしいという話で、もうメールなんて頻繁に使用しないですね。我々の世代でも、インターネットでどこにご飯を食べに行こうかなと検索しま

すが、今の若い人は検索さえしないです。すでに SNS で気に入ったものを保存します。仕事の進め方や生活がもう世代によっても大きく違います。僕は英語はいつに遡るかわかりませんが、明治の頃から海外に行って、新しいものを取り入れるためには英語が必要で、世界中がつながっていく中で、日本だけでは世界に出られないから、英語教育をしてきたんだと思っています。

- スマホが普及し始めたのもたった 15 年前で、10 年前ぐらいに、かなりの普及率になりました。この 10 年で、それだけ変わるんです。このままだとどんどん遅れていきます。それで世界 1 位は実現出来ないと思いますので、もっとそういうものに意識高く取り組んでいていただきたいです。それに引っ張られる形で子どもたちをもっていうのが理想だと思います。いろいろ考えておられるとは思いますが、検討いただきたいです。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 毎週、教育委員会は割と毎週必ず出てもらいますし、臨時も入りますと結構出務は月の中で多くなります。今までだったら必ず集まってもらっていた協議会をオンラインでしようということ、ここ二、三か月ぐらいですがやり始めています。
- また、協議会とかで集まってもらったときに、そもそも教育委員さん用の端末がないんです。だから、事務局は端末を見て答えているんですけど、委員さんの分はないという、その矛盾があるので、それはちょっとまた解決していった、少なくとも教育委員会議のときはもうみんな端末しか持ってきていないと言う状態にしていきたいです。そんなに難しくないことだなというふうに思うので、少しずつでもやっていこうと思います。

(箕面市：原田市長)

- 今、酒井委員からもご提案いただきましたので、まず私も教育委員会のどの分野が全然 ICT 化が進んでなくて、どこがもっと ICT 化できるのか全然まだ把握も出来ていませんので、ぜひ事務局のほうから、思い切って大胆に ICT 活用できる分野があれば提案していただきたいなと思います。その提案には前向きに対応していくし、それについてこういう予算をつけて欲しいということについても前向きにやっていきたいと思っているので、ぜひ挑戦していただければと思います。ICT 化というとソフト面ばかり捉えられるのですが、今回箕面市役所のパソコンを全てノートパソコン化しました。今デスクトップから会議のためにプリントアウトしてその紙持って会議室に行くみたいな人が、みんながパソコンを持っていけるようになりますし、パソコンの中には生成 AI の crew が入っているので、それをどう活用するかというリテラシーをそもそも高めないとイケな

いんですけど、何か今まで教育長のご意見があつて、ICT といえばオンライン会議みたいな発想だけじゃなくて、もう一步、この生成 AI を使ったら、もっとこういうことができるのかということも含めて、ぜひ若手の方中心に、新しい提案をいただいたら積極的に採用していきたいというふうに思っているので、ぜひ提案をして挑戦をしていっていただきたいと思います。

- また酒井委員も、この分野でできるからやってみてほしいということありましたら、積極的に事務局に言っていただきたいと思います。

(高橋委員)

- 今、酒井委員がおっしゃるとおりだなと思う一方で、行政サービスはなかなか日本では、一気に ICT 化を進めるのは難しいんじゃないかなと思っています。
- 自治会とかの回覧板 1 つとっても、ICT 化するのはかなり困難で、結局アナログの回覧版と、インターネットと 2 本走らせないといけないとなって、結局巻き戻ってしまったりしています。
- 酒井委員の補足みたいな形でお伝えしたいのは、必ずしも教育委員会など大人の部分が ICT 化出来ないケースがあるとは思いますが、それでも子どもたちの ICT 化の部分、教育の部分は並行して進めていってもらいたいということです。必ずしも大人から進めていかないといけないわけではないと思います。できるところから進めていってもらいたいです。もちろんやっていただけると思いますが、日本と他の国ではいろいろな文化も違ったりするところが大きいあつて、なかなか切り捨てるのは難しいと思いますので、その点は理解しておりますので、可能なところから進めてもらいたいと思っています。
- また別件で、今回の教育大綱で不安に思っているところが 2 点ありまして、1 点目は、何回かお話している、部活動の地域移行のところがですね、具体的には 2025 年の計画には、あまり入っていないのかと思うんですけども、部活動の地域移行と言いつつも実際、神戸市とか身近なところではもう廃止となっていて。廃止をして、民間のクラブ等が受皿になって、そういう状況になってきています。移行というのは何か実際、実情は違うのかなと思っていて、個人的にはそれはそれで仕方ないと思っています。やっぱり教員の方の負担がすごく多く、教員が定着しない。そういう問題がやっぱりあつてのこういう話だと思っておりますから仕方ないとは思いますが、今、習い事等が受皿になった場合、受皿がない競技は箕面市では廃れていってしまうと思います。吹奏楽とかありますけど、これを廃止した場合、受け皿になるのは結局先生たちがいろんな受け皿にならないといけなくなるのではないかと。形だけ移行して、結局先生方の負担は一緒になったりするのではないかと思います。公立の学校だけで廃止した場合、私立の学校にだけ部活が残ります。そうしたらせっかく教

育を箕面市で頑張っている、私立の学校にやっぱりかなわないということになってくるのではないかと思います。やっぱり部活動自身の教育的な意味合いで、教育・子育て世界一の部分に部活動が含まれるのかどうか、ちょっと考えていただいたほうがいいと思います。残すべきなのかどうか、本当に残するのであれば、お金をかけていく必要がでてきますから、その辺をちょっとしっかりと検討いただく必要があると思います。これが一つ目の不安です。部活動の地域移行がうまくいって、部活動がなくなってしまった場合どうなるのかということ。それを受け止める方々にちゃんと話が正しく伝わっているのか、混乱を招くのではないかと。多分皆さん考えてることは違うと思うが、この辺はしっかりと統一する機会を作っていくべきだと思う。学校教育から外れるとなると、生涯教育に移行していくのか、それとも教育大綱から部活の話そのものがなくなっていくのかを含めて考えていかなければいけないと思います。

- もう一つは、勝手に思っている不安ですけれども、外国の定住者が増えてきているが、箕面市は幸い、こういう、工場とか、そういう外国の働き手を大勢抱えるような町ではないという関係から、あまりいわゆるブルーカラー層の外国の方々が定住しているケースはまだ少ないと思います。技能実習生ですとか。今後、在留資格の変更をすれば家族の帯同が認められるようになります。しかし新たに日本に来て子育てを始めたかたとは分断が生まれてしまいがちです。増えてきた場合に備えて、2024年のこの日本語教育を国際交流協会と提携してやっていたというのはあったんですが、それだけではなく、本当に十分な備えをしておく必要があると思います。言葉を教えるだけじゃなく、日本の生活習慣を教えることは子どもたちだけでなく大人に対してもそうだと思いますけれども、そういう形で、日本の社会に溶け込めるような環境を準備するという考えを持って、備える必要があると思います。その辺も今後はご検討いただきたいと思います。

(教育委員会：藤迫教育長)

- 部活動の件は、教育委員会の中で協議をずっとしてきた中で、我々も苦しいなと思いながらなのですが、令和6年度に、なかなか全部を地域展開するのはやっぱり難しいと議会の答弁でもしましたように、休みの日は何とかなったとしても、平日までというとなので、当初考えてた案は、休日の日は何とかその地域の受皿にお願い出来ないかなと。平日は放課後1時間程度出来たら御の字ぐらいの活動なので、それこそ子どもたちの自主的な活動を、ちょっと遠くから見守るというくらいで、教員もそれほど負担がないので、2段階方式っていうのを手に届く目標として掲げていこうかということを考えてたのですが、学

校長を集めてヒアリングしたら、もうそれではもたないと。何を言われてるかという、神戸のように声を上げて、部活動がもうなくなるとは言わないまでも、近い将来、箕面の中学校から部活動がなくなるとというのが濃厚です。教員がボランティアでやっていますので、実際にもう学校現場では、もう断る教員が増えてきているということなんです。

- 昔だったら先生が子どもたちのためやから何とかやってくれと言って、わかりました何とかで持ってたのが、もう世の中の的には何かもうそういう断り方の本が出ているらしいです。論理的に部活動の顧問を断る本っていうのがあって、このとおりでいくと、校長先生はもうぐうの音も出なくなるというのがもう世の中に出回ってて、そんなんを見て、そうなってますよということで、校長のヒアリングを聞いて、この間、方針を、中で、協議会で話して、もう変えたんですよ。もうこれは地域地域展開云々の話じゃなくてその話が仮になかったとしても、近い将来、箕面の中学校から部活動は自然消滅です。
- であるならば、自然消滅させたら駄目なんで、地域展開をもう早くそれまでにしようということで、令和9年度、もう目標決めようと、もう今みたいにだらだらだらだら、どうなのか、ちょっと右のほうに行ったり左に行ったりするんじゃないかって、もう明確に決めて、もう令和9年度にやるんだというか、覚悟を決めて、この2年間、もしくはこの1年間、令和7年度に力入れていこうということで、実は組織として児童生徒指導室というところが今までやってたんですけども、そこに部活動地域展開推進担当ということで、中学校の校長を引揚げて、重点的に令和7年度はやるということにしていますので、課題がたくさんありますが、令和9年度にやるということを決めましたので、令和7年度には取りあえず1年かけてぜひ意見をいろいろいただきたいのでよろしくお願いします。

(箕面市：原田市長)

- 高橋委員に限らず、日本全国の保護者であったり、学校が、同じように不安に思っていると思います。これは相手方あってのことで、地域移行も受けてくださるところがあつてのことなので、できるできないはどうしても生じてしまいます。
- 組体操の議論に似ていると思ってまして、組体操が危ない、けが人も出ているということで、組体操でないと、組体操の教育意義が果たせないのかということで、実はダンスであったりとか違う活動でも教育意義が果たせたということがあります。部活動が担えなくなっていることはもう明らかですから、それは仕方ない流れだと私は思っていて、部活動で得られることもたくさんあるのという保護者の方にも、理解をしていただかないといけない状況にあると思っています。

- 部活動が学校からなくなったときも、部活動が果たしていた役割は、違うもので代替せざるを得ない状況だと思っていますので、それはやっぱりそういう考えになってもらわないといけないなど。部活動で得られていたものが何なのかということをしっかり棚卸しして、学校で引き続き何か違う活動で担えないのかというようなことを含めて話をしていかないといけないなと思っていますので、この方向になるということについては、もうやむを得ないというふうに捉えています。
- 外国人の定住者ですが、今 3,000 人ぐらいの方が箕面に住んでいただいている、増えていくだろうというふうに思っています。ただ箕面の本当に欠点で、土地が高く、若い子育て世代に来てほしいんだけど、若い子育て世帯向けのマンションやアパートがそもそも少ないという環境がそもそもあるので、どのぐらい増えるのかというところは懐疑的に見ているところもあるので、どれぐらい増えるかっていうのをちょっと見極めながら、備えていきたいなと思っています。

(荒木委員)

- 昨年 11 月にご承認いただいて、委員をやらせていただいている中で、箕面市の教育水準の中身であったり、制度であったりを拝見して、すごく高い水準で、さらに教育日本一を前回掲げたということで、すごいことだなと感じています。その中で先ほど原田市長がおっしゃっていた、教育世界一にするためのプランというか、現状というのをちょっと聞かせていただいた中で思ったのが、世界一というのは、市の職員だったり、現場の教職員であったり、子どもたちやさらには保護者にも共通認識でいてもらうことが大事だと思います。
- 箕面市がやっていることって、探求型であったり ICT だったり、プログラミングという部分もやっていますし、プレゼンもやっています。要はばらばらというか、スポット的に行われています。STEAM 教育というのがあって、要は技術、科学、工学、芸術、数学が全てその一つの問いに対して、つながっていることを、そういった教育の一つとして、定義されているもので、箕面市の STEAM 教育っていうものを、共通認識でこういう問いに対して、ゴールまで導くことが STEAM 教育だっていうのを、現場から全ての人にそういう共通認識を持ってもらいたいなど。
- また、教育長にもちょっと、お話しできたらと思いますので、そういった視点で、箕面市は取り組んでいくということを改めて感じてもらうことが、そういう共通認識につながって、やがては教育世界一に繋がるのではないかと思います。

(飯田委員)

- 部活動の地域移行とか、放課後のデザインを市として行ってみるのはどうかと思います。箕面タウンラボみたいな感じで、民間は民間の良さがあり、公教育には公教育だからできることがあるというような感じで。例えばスポーツもサッカーだけをするのではなくて、春は野球をして、夏は水泳をというように、様々なスポーツを小学校、中学校の時にすることによって、50歳、60歳になった時に昔やっていたスポーツをやってみようかなとなるのではないかとおもいます。
- タウンラボみたいなしかたをすると市長も言われてるような、バウチャーの部分も回ります。お金が回るとそれも形になるのではないかと。子どもたちの学びの場を、地域活動化も含めて、1つのマップに載せて計画するのも1つの選択肢と思って見ていました。それが全て市民が自主的にするのであれば、最後の「生涯学習・社会教育」というところも、自ら自主的にまちを作るんだという意識が芽生えて、自分がしないと出来ないことを、行政がなんとかしてくださってという受動的なかたが増えてきているように思うので、これを機にみんながまちをつくろうと何ができるか考えさせるような大綱にしていただけたらうれしいです。

(山元代表委員)

- 今日の総合教育会議は良かったですね。市長のホワイトボードの説明は新鮮で、倉田市長や上島市長の時はなかった初めての展開なので、若いって素晴らしいと思いました。すごく新鮮で良かったです。ありがとうございました。

(事務局：藪本局長)

- 貴重なご意見、ありがとうございました。
- それでは以上をもちまして、令和6年度第2回総合教育会議を閉会します。皆さん、ありがとうございました。